平成20年度　京都府立網野高等学校　学校経営計画（スクールマネジメント）　（実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
1　生徒信条にある「青年は未来を信じ使命に生きる」立派な若人を育てるため、「自律と自立」の精神を養う。 2　学校行事、部活動、ボランティア活動を通じて調和の取れた人間を育成する。 3　基礎基本を徹底し、学力の向上を図り、希望進路を実現させる。	（成果） 1　学力向上フロンティア校「ホームスタディ100分プロジェクト」の実施により、学習指導のベクトルが揃い、学力向上に向けて活力が出てきた。 2　進学指導体制が整い、網野高校始まって以来の国公立大学合格者22名を出すことができた。 3　危機管理体制が整備され、生徒の盗難など皆無となり、安全安心の学校づくりを行うことができた。 4　PTA総会の日曜日開催、保護者全員面談など保護者連携が大幅に前進し、学校に対する保護者の信頼を得ることができた。 5　レスリング部、体操部、美術部を始めとして、全国大会や近畿大会での活躍など、活発な部活動が展開された。 （課題） 1　「ホームスタディ100分プロジェクト」をさらに発展させ、学力向上の指導を定着させる必要がある。 2　生徒会活動を活発化させ、生徒の自主活動を積極的に展開する必要がある。 3　8割以上の部活動加入を促し、クラス減に負けない活気のある網野高校を目指す必要がある。	1　「3アップ＋1」の運動を推進する。 （1）　マナーアップ（自制心・豊かな心） （2）　クリーンアップ（ボランティア精神・環境美化） （3）　パワーアップ（学習と部活動の両立） （4）　＋1アップ（各自が課題を設定し、その解決に向けて努力する） 2　学力向上フロンティア事業「続・ホームスタディ100分プロジェクト」を実施する。 3　保護者連携を推進し、開かれた学校づくりを行う。

［評価段階］　A：十分達成できている　B：ほぼ達成できている　C：あまり達成できていない　D：ほとんど達成できていない

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
組織・運営	・学校全体の指導力を高め、学力向上や希望進路の実現、部活動のさらなる活性化をめざす。	・続・ホームスタディ100分プロジェクトを成功させるため、教員の指導力を高めるための研修を学期に２回以上実施する。	B	B	B	・教職員研修は、学期２回の目標回数に少し至らなかったが、竹岡先生の講演会（研修）が大々的に開催でき、３学期には実践発表等の有意義な研修を２回実施できた。
	・開かれた学校をめざし、さらに地域や保護者との連携を強化する。	・本校の情報を広く発信する。広報誌「アカシヤの丘」を年１２回発行する。	B	B		・「アカシヤの丘」は４月に発行ができなかったが５月以降は毎月１回発行できた。年１１回発行。
		・ＰＴＡお知らせメールのシステムを確立し、６月から本格稼働させる。	B			・お知らせメールについては、各所との連携・連絡をスムーズに行い、５月からスタートさせることができた。ただし、アドレス登録者を今後いかに増やすかが課題。
事務部	・開かれた学校としての窓口業務を的確に行う。	・相手の立場に立って　親切で確実・迅速・丁寧・爽やかな対応をする。	B	B	B	・全般的に確実な対応が出来ている。より一層確実な対応に努めていきたい。
		・受付業務をとおして、来校者の把握を確実にする。	B			・接遇マナー講座に参加し、接遇の基本を確認することができたので今後に生かしていきたい。
	・施設設備の安全管理の徹底と学習環境整備を行う。	・校舎内一斉見回りを月1回行い、危険箇所等の早期発見に努める。	B	B		・　一斉見回りはできていないが、それぞれ担当（衛生管理者、施設担当・技術職員）での見回りはできた。
		・学習環境を整える。（ 学習室の整備をする。）	B			・危険箇所等については、教職員からの情報もあり早期に対応ができた。 ・自習室の壁面の改修ができた。

教務部	･家庭学習の習慣化による学力向上を図る。	･学習指導室や学習資料室を整備する。	A		B	・学習指導室と自習室を整備することができた。 ・学習時間調査は、全８回行った。学習時間の平均は増加傾向にあるが、100 %の生徒が増加したわけではない。また、生徒へのフィードバックが出来なかった。 ・ふだんの授業、教務がつかさどる諸行事は全職員の協力もあり、予定通り実施できた。 ・校内教務ホームページを毎日更新でき、情報を共有することが出来た。 ・学校行事の関係で８月に予定していた読書週間が実施できず、年２回（各１週間）の実施になった。読書週間の在り方、時期、時間など検討すべき課題がある。 ・図書貸出冊数は一人平均 5.6 冊となり目標を達成した。来年度はバーコードシステムの導入を検討したい。
		･学習時間調査を学期２回行い、生徒にフィードバックすることで、年度当初より年度末に家庭学習時間が増加した生徒を100%とする。	C	B		
	･授業や行事を円滑に実施する。	･各分掌との連携を密にして調整を図る。	B	A		
		･校内教務部ホームページを毎日更新する。	A			
	･読書習慣を定着させる。	･読書週間を年３回設定する。	C			
		･図書室についての広報活動を強化し、貸出冊数を生徒一人あたり5冊以上とする。	A	B		
第1学年部	･学習習慣を確立し、進路目標を育む。	･教科書の持ち帰り指導を行い、家庭学習の充実を図る。	C		B	・教科書持ち帰り指導については、年間を通して行ったが、一部の生徒に指導の徹底ができなかった。家庭学習時間も後半、減少した。 ・全生徒に対して面談を 3 ～ 4 回実施し、生徒の状況把握や進路目標の具体化ができた。進路目標が確立できていない生徒もいるので、今後も継続的な指導が必要である。 ・入学当初は、約 8 割の生徒が部活動に参加していたが、その後若干退部者が出た。 ・生徒の様々な事象に関して、必要に応じて保護者と連携した対応ができた。 ・ベル着については、クラス、教科によって差が生じた。朝の遅刻や欠席等が少なく、また、学年集合、全校集合等においても集合が早く、おおむね良好であった。
		･個別面談を学期に1回〈年3回以上〉実施し、個々の生徒に応じたきめ細かな指導により進路目標を持たせる。	B	B		
	･基本的生活習慣を確立し、規範意識とマナーを身につける。	･部活動･ボランティア活動への積極的な参加を促し、8割以上の生徒を部活動に参加させる。	A			
		･保護者との連携を密にして、保護者と学校が一体化した生徒の指導を行う。	B	B		
		･ベル着を徹底(１００%)させ、時間の大切さと規律ある学校生活を指導する。	B			
第2学年部	･進路希望を明確にし、進路実現に向けての基礎固めに努める。	･個別面談を年間3回以上実施し、進路希望未定者を5%以内とする。	B		B	・個別面談は目標通り実施できたが、進路希望未定者は約７%、家庭学習０の生徒は約 14 %あり、目標に到達できなかった。 ・模試・講習に関して、Ｉ類文理科系については、ほぼ全員が受験しており、目的は達成できた。文系については、学習時間も含め、今後も指導が必要。 ・服装・頭髪については、保護者との連携がうまくできた。また、修学旅行を無事、成功させることができた。
		･続･ﾎｰﾑｽﾀﾃﾞｨｰ100分ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄの趣旨を理解させ、家庭学習0の生徒を5%以内とする。	C	B		
		･Ｉ類生徒の進学講習･模擬試験受験を促す。	B			
	･社会の一員としての自覚を促し、社会的なマナーを身に付けさせる。	･常に服装･頭髪･言葉遣い等、生徒の変化に気づき、生徒への声かけに努める。	A			
		･保護者との連携を密にし、生活実態の把握に努める。	B	A		
		･規律ある行動で、修学旅行を成功させる。	A			
第3学年部	･規範意識を高め社会的なマナーを身につけさせる。	･身だしなみ指導を日常的に行う。	B		B	・生徒部と連携するとともに、日常的に指導を行った。しかし、点検のたびに特定の生徒があがるなど、課題を残した。 ・保護者と密に連絡を取るなどの指導を行い、遅刻・欠席を少なく押さえることができた。しかし、２学期後半以降、遅刻者が増加し、特別指導生徒も０人にはできなかった。 ・教室環境整備については毎日担任が点検を行った教室もあったが、学年全体としては徹底して行えなかった。 ・教員間の連携を密に指導したが、クラスによってバラツキがでた。
		･欠席・遅刻の多い生徒に対して、保護者と連携を密にとり、遅刻特別指導生徒数を０とする。	C	B		
		･教室環境を整備する。	B			
	･学力の充実と、生徒一人一人の進路目標の実現を図る。	･本人・保護者・担任・進路指導部が綿密な連携をとる。	B			
		･面接が必要な生徒に３回以上模擬面接を行うなど、面接指導を充実させる。	B	B		
		･進路講習・土曜セミナーなど進路指導の取組を充実させ、国公立大学合格率７０%以上、就職内定率１００%を実現する。	C			

						・模擬面接指導は丁寧に行えたが、全員に対して３回以上面接はできていない。 ・就職については１名未定者が出てしまった。進学については、センター試験対策等の取組を行ったが、結果が伴わなかった。
保健部	･自他の生命を大切にし、自らの心身を自主管理できる生徒を育成する。	･生徒の生活実態に合わせ、生徒自らの健康を自主管理させるため、保健だよりを月1回発行する。	A	A	A	・課題のある生徒、悩みを抱える生徒の状況を学年部と密に連携を保ちながら適切に指導、助言ができた。 ・自己管理不足から体調を崩す生徒も見受けられ、健康を自主的に管理できる意識を育てる指導をさらに充実させる必要がある。 ・美化委員会の点検活動は定期的に行えたが、生徒の美化意識がまだ幾分低く、ゴミの分別の徹底が図れていない部分がある。
	･組織的な学校教育相談活動を推進する。	･関係分掌や関係機関と連携し、生徒への支援体制や学年へのサポート体制を確立し、個別指導を充実させる。	A	A		
	･環境を大切にする生徒を育成する。	･教室の整理整頓、日々の清掃活動、ゴミの分別収集を徹底させるため、生徒美化委員会の清掃点検を週1回行う。	B	B		
生徒指導部	･「自律と自立」を念頭に学校生活上の規範の指導を行う。	･規範意識とマナーを向上させる。	B	B	B	・定期的に服装頭髪指導を実施することができた。 ・服装頭髪等の指導について一致した理解のもとで全教職員による指導をより充実させる必要がある。 ・生徒減を見据えた学校祭・部活動等の見直しを行い、来年度以降への方向性を出すことが出来た。 ・ボランティア活動の底辺の拡充を図ることができた。 ・今後はボランティア活動の発想・創出を生徒自らの力で行える実践力の向上が課題。 ・部活動加入率は８割に達しなかったが、来年度も８割を目指していくことが重要である。 ・クラブ員に対しての取組が今年度は行えなかった。 ・全学年で年間３時間以上の人権学習を実施できた。今年度、新しい教材を３つ実施したが、内容的に不十分な点も多く、さらに教材研究を進める必要がある。 ・教職員人権教育研修を実施したが、内容等の検討を十分に行う必要がある。
		･授業の規律確保と定期的な服装頭髪指導を行う。	B			
		･クラブ部員としての自覚を高めるため、クラブ部員集会を学期に1回行う。	C			
	･部活動、学校行事を充実する。	･学年部、保健体育科と連携し、部活動入部者の増加に努め、8割以上の加入率とその継続を実現する。	C	B		
		･生徒数減を見据えた行事の在り方を検討し、1学期中にプランを提示する。	B			
	･ボランティア活動を発展させる。	･「1クラス･1クラブボランティア」の取組をすべてのクラス、クラブが行う（100％実施）。	B	B		
	･人権問題を自らの生き方の問題としてとらえ、実践する態度を育成する。	･各学年の人権学習の時間を年間３時間以上確保し、人権問題についての理解を深めさせる。	B	B		
		･研修の実施、そのアンケート集計等をとおして教職員の人権意識の向上させる。	C			
進路指導部	・生徒の希望進路の実現	･将来の目標に向かって生徒が主体的に学習する機会を与えるため、進路関係の取組を充実させる。	B	C	C	・学習合宿の会場の変更、取組内容の改善を行った。 ・専門学校等のガイダンスの機会を増やした。 ・大学等で行われる講習会・模擬授業等への積極的な参加を促した。 ・就職内定率は、２月２７日現在で 95.0 %。未内定の生徒が１名おり、指導を継続中である。
		･進路HR、進路講習、模擬試験等の取り組みを通じて、国公立大学の合格率を70%以上に、就職内定率を100%にする。	C			
企画経営科	･特色ある専門教育を推進する。	･社会人講師を活用した専門性豊かな授業展開と、検定・資格取得を目指した授業改善、指導体制を確立する。各検定３級合格率８０%以上を目標とする。	A	A	B	・第1回丹後活性化プレゼンテーション大会が開催できたことは大きな成果である。検定３級合格率は８５．２%である。目標の８０%以上の合格者を出すことができた。 ・４年制大学５名（うち専門学科推薦４名）・短期大学４名・専門学校９名・職訓校２名・就職６名・家業１名の進路が決定した。ほぼ資格や専門知識を活かした就職・進学ができた。 ・説明会等を通じて活動を行った結果、推薦入学希望者が増加した。広報誌は１回のみの発行に終わったが、京丹後市や地元商工会等との連携関係が強化できた。
	･学力の充実と進路希望を実現する。	･生徒の適性と個性に応じた授業を推進し、専門教育の特色を活かした進路指導を充実させる。	B	B		
	･中学校及び地域社会との連携を図る。	･地域への積極的な広報活動を推進することにより、中学校・地域社会と連携する。広報誌を年２回以上発行する。	B	B		
	･学習方法を確立させる。	･学力･進路希望に合った学習方法を確立させ、授業ア	C	C		・第１回授業アンケートの結果、「予習・復習がしっかり

国語科		ンケートで「家庭学習がしっかりとできた（「だいたいあてはまる」も含めて）」と回答する生徒を80%以上にする。			B	とできた（「だいたいあてはまる」も含めて）」と回答した生徒は全体の 46.7 %であり、家庭学習の習慣の確立という点では不十分であった。 ・スピーチやプレゼンテーションなどに取り組んで「話す・聞く能力」を高め、小論文・創作などに取り組んで「書く能力」を高めることができた。 ・小論文利用入試の合格率は、74.2 %（２月末現在）であり、特に国公立大学の推薦入試の結果が良くなかった。 ・１年生に対して図書館オリエンテーションを実施し、ブックレビューにも取り組んだ。１、２年生は夏季休業中に読書感想文の課題を出した。しかし、国語科全体で継続的な取組を行うことはできなかった。 ・第２回の府立高校実力テストで、偏差値５０以上の生徒は、１年生普通科 53.8 %、企画経営科 63.3 %であった。２年生は、普通科 49.7(47.5)%、企画経営科 31.0 (41.4)%であった。 ※(　)内は前回。１年生第１回は普通科・職業科の区別がないため、比較できない。
	・自分の考えを導き出す。	・言語活動を活発に行い、主体的に考える能力を高める。	B	B		
	・適切な日本語で表現する。	・言語事項や文章表現の指導を充実させ、小論文利用入試の合格率を80%以上にする。	B	B		
		・読書習慣を身につけさせる。	B			
	・文章知識、読解力を高める。	・様々な文章を的確に読解させ、府立高校実力テストにおいて、偏差値50以上の生徒を70%にする。	C	C		
地歴公民科	・指導の工夫を行い、基礎基本を定着させる。	・定期テストごとに授業ノートを提出させ、記入状況を点検する。	A	A	A	・授業ノートは、毎回点検することができた。 ・夏季課題は、１００%回収できた。。 ・週末課題はクラスによって差はあるものの、おおむね定期的に実施できた。不完全な内容の生徒未提出生徒への指導が課題である。 ・全員に課題を提出させ、確認テストを実施した。テストで８０点未満のものを不合格として再テストで全員８０点以上で合格させることができた。（ミニマム・クリア）
		・現代社会の夏季課題として「小論文」を課し、100%回収し、評価に入れる。	A			
		・2年生の文系・文理科系・Ⅱ類で週末課題を実施する。	B			
		・1年生の春季休業中に地理確認課題を出し、確認テストを実施する。	A			
数学科	・基礎学力を定着させる。	・毎週，宿題を出す。1年生・2年生においては2週間に1回小テストを実施する。	B	B	B	・宿題はほぼ毎週出した。小テストは 1 年生ではほぼ実施できたが、2 年生では単位数の少ない講座でできないときがあった。実現に向けては工夫が必要。 ・講習は予定通り実施できた。チャレンジ問題は全部で 14 回提示。挑戦者の少ないのが課題。
	・学力を伸長させる。	・全学年において講習を実施する。チャレンジ問題を2週間に1回掲示し，挑戦させる。	B	B		
理科	・理科に対する興味・関心・探求心を高め、身の回りにある自然現象に対し、科学的な視点で物事を捉えることができる力を育成する。	・各講座で年間５回以上の実験・実習を行う。	B	B	B	・実験や実習の回数についてはおおむね達成できた。 ・小テストや宿題を定期的に実施し、家庭学習の習慣化に繋げることができた。 ・研究授業などを行い、教科内の連携を深めることができた。また、中学校理科研究会を実施し、中学教員との連携も深めることができた。 ・理系進学者４０%は、なかなか厳しい状況である。
		・教科内の連携を図り、授業内容の工夫や、教師力向上に努める。	B			
		・小テストや、宿題等を定期的に実施し、生徒が家庭学習を習慣化できるような取組を促進する。	B			
		・理系進学者４０%以上を目標に、講習などの進路希望実現に向けた取組を効果的に行う。	C			
保健体育科	・課題に対して、生徒自ら考え工夫し、解決する力を育成する。	・網高体操のテスト（1年生）を1学期授業内で100%合格させる。	B	B	B	・補習等行ったが、１名だけ授業内に合格することができなかった。 ・集団行動については、１学期当初特に重点的に行った。全体で集合する様子から、授業内における規律・規範意識は高まった。 ・授業進行により、１年生で行うことができなかった。２年生は完了。現１年生は２年当初に実施予定。
		・学期に1回以上の集団行動を実施し、規律・規範意識を高める。	B			
		・生徒全員に心肺蘇生法の実習をさせる。	C			

芸術科	（音楽）･音楽の基礎的な表現方法を身につける。	･１年間を通し階名唱や発声など繰り返し練習する。	A	B	B	・毎授業の開始とともにコンコーネ５０番のテキストを使い階名唱や発声に年間を通して取り組むことができた。練習ごとに読譜力や声の響きの向上が見られ、表現に幅ができた。 ・楽曲分析は、分析したことを自己の演奏に結び付けるまでには至らず課題が残った。
		･旋律やリズム、歌詞など楽曲の内容分析を深める。	C			
	（美術）･創造的な表現と鑑賞する能力を向上させる。	･テーマに応じて明暗や遠近法等の基礎基本を徹底する。	B	B		
		･創造的な表現方法の模索のため、多くの作品を鑑賞する機会を設ける。	B			
		･各種コンクールに年間3回以上応募する。	C			・美術室で視聴覚機器を使った鑑賞ができるようになり、効果的に過去の生徒の作品や有名作家の作品を提示できた。それが生徒の活動のデータベースになり、基礎基本を徹底する参考資料になった。 ・作品制作は例年並みの質量であったが、コンクールへの応募ができなかった。今後は年度当初に見通しをもった計画を行うことが必要である。
	（書道）･鑑賞する力をつけ、自己表現の力を養う。	･授業規律を確保する。	B	B		
		･古典の臨書を通してよいものを鑑賞する力をつけ、書の基礎基本を習得させる。	B			・忘れ物や教室の使い方にやや課題が残った。 ・古典の臨書について理論的に学習し、知識を深め、基礎的・基本的な事柄を習得し、それを生かした鑑賞の活動ができた。
		･創造力をつけ、個性豊かな自己表現ができるようにする。	A			・書に親しみながら生徒も意欲的に活動に取り組み、その成果として、創造性のある個性的な作品を残すことができた。
英語科	･学力、コミュニケーション能力の伸長を図る。	･全授業で毎回必ず宿題を出し、家庭学習の習慣を形成する。	B	B	B	・宿題や小テストを定期的に課したが、小テストが確実に週１回のペースでできていなかったときがあった。 ・オーラル系の科目では英語のみを使用する授業形態を追求し、５０%以上の発話を英語で行い、1年生のオーラル等１００%英語による授業もあった。 ・研究会や研修に積極的に参加し、指導力の向上を求めた。また、自主的に教科の公開授業を設定した。、英語科の校外授業研修等への一人あたり平均参加回数は2.5回であった。 ・校内での他教科の授業見学の回数は平均1.3回であり、目標を達成した。 ・英検においては、全体の最終合格率は48.7％となり、昨年の45.4％を3％以上上回った。目標の2級においては目標の25％に到達しなかったが、昨年より4％以上伸ばし、23.3％が合格した。 ・府立高等学校実力テストでは1年企画経営科で平均偏差値を７点以上引き上げた。全体的には1年、2年ともほぼ横ばいで、学力伸長に向けての取組方法を再考しなければならない。
		･英語Ⅰ、Ⅱ，リーディングにおいては週1回は必ず小テストを行う。	B			
		･オーラル系の科目では教師の発話の50％以上を英語にする。	B			
		･年間を通じ、必ず1回は英語に関する研究会もしくは研修に参加する。	A			
		･教務部が主催する研究授業以外に、必ず1度以上は他の教員の授業を見学し、授業改善に努める。	A			
		･実用英語技能検定の合格率を昨年度の20．5％から25％まで引き上げる。	B			
		･府立高等学校実力テストにおいて、第1回の全体の平均偏差値を第2回に2ポイント引き上げる。	C			

家庭科	・生活科学の基本的な知識・技術を定着させる。	・提出物一覧表を作成し、生徒に意識させる。	B	B	B	・提出状況の自覚はより高まったが、提出が遅れている生徒への指導を工夫しなければならない。
		・実験・実習を家庭基礎、家庭総合、生活技術では15時間、フードデザインでは20時間行う。	B			・家庭基礎、家庭総合、生活技術では11時間、フードデザインでは20時間行った。
	・食中毒を予防する。	・調理室の使用について周知徹底し、安全管理に注意する。	C	C		・調理室を使用している講座では周知徹底できている。また、安全管理のために機械類の取扱説明書を掲示した。しかし、家庭科以外での調理室の使用については検討が必要である。

(成果)

1　2年目の学力向上フロンティア校となり「続・ホームスタディ100分プロジェクト」をテーマとして、生徒の家庭学習時間の増大と学力の向上をめざして取り組んだ。学習時間は昨年比較(2回の同時期比較)で16分増加した。また、府立高実力テスト1年平均偏差値において、第1回に対して第2回めがⅠ類で＋0.8点(昨年－0.6点)、Ⅱ類で＋2.4点(昨年＋1.4点)、企画経営科で＋14.7(＋8.6　ただし、2回目はいずれもA問題の選択)となり、昨年を上回った。さらに、次のような成果が得られた。

(1) 教職員の他校(中学校・高校)での授業見学研修の回数の増大・・・一人あたり平均2．1回

(2) 保護者への「お知らせメール」の開始・・・全保護者の35．1%が登録し、学校情報の伝達がスムーズに行えた。全部で49回発信した。

(3) 保護者「来校スタンプラリー」の取組・・・保護者にできるだけ多く来校してもらい、生徒理解、学校理解をしてもらう目的で行った。一人あたりの平均来校回数3．2回を実現した。

(4) 「竹岡先生特別講演会」の実施・・・生徒・保護者・教職員の3者が学べる行事として位置づけ、さらに近隣の中・高の教員にも呼びかけた。(保護者54名、他校教職員31名)

(5) 教職員が現場で学ぶ機会の充実・・・教員が自分の実践を発表する研修会を持つことができた。非常に内容の濃い、充実した発表となり、若い先生を中心に他教員が刺激を受けた。

2　挨拶・礼儀・規律を重んじる生徒指導により、落ち着いた学校環境が保たれ、生徒指導件数も減少した。マナーアップ、クリーンアップができた。

3　地域との連携を推し進めた。・・・地元・地域の要請に応じ、各種行事「ちりめん祭り」「太鼓祭り」「港祭り」「京丹後市見聞セミナー」「北京都近畿鉄道の催し」「食の祭典」等々に学校が協力し、また、逆に新しく本校が創設した「地域の活性化」をテーマにした企画経営科の「大プレゼンテーション大会」に京丹後市長や京丹後市、商工会、観光協会の要人に審査員として出席してもらうなど連携を強化した。

4　レスリング部、体操部、ウエイトリフティング部、美術部等をはじめとする部活動が、世界大会や全国大会、近畿大会等で活躍し、また学校・地域で地道に活動し、学校の活性化につながった。

5　「1クラス1クラブボランティア」やボランティア部やボランティアバンク等による地道なボランティア活動が高く評価され、時事通信社の教育奨励賞を受賞した。また、野球部が参加した海岸漂着物調査の取組が「京都水宣言記念・京都水づくり賞」を受賞することとなった。他にもボランティア部等が、京都府の代表として「全国ユースフォーラム」に参加し、ボランティア活動等について発表、交流を行った。

6　多くの要請を受け、地元・地域の小学校を中心に、計23回の出前授業を行った。本校の人的資源の地域への活用とともに、本校が理解される機会となり、広報につながった。

次年度への改善の方向性	(課題) 1　学力向上を目指して、教職員の指導力のさらなる向上をめざす。そのため、各種の研修の精選と活用、現場での研修の在り方等を追求し、成果を上げる。 2　部活動、ボランティア活動の充実を維持し、さらに道徳教育の取組を展開し、豊かでつよい人間力を育成する。 3　京丹後市や地元、さらに地域の小中学校や教育委員会との強い連携関係を継続し、地域から支持される高校をめざす。 4　保護者と学校(担任)、保護者同士の連携強化を図り、学校理解、生徒理解に努め、教育活動推進に協力してもらう。